

自然史しずおか祭 2020 報告

横山謙二



自然史しずおか祭 2020

2020年10月31日から11月8日にかけて、秋のイベントの「自然史しずおか祭2020」を開催しました。「自然史しずおか祭」は、2017年から始めたイベントで、今年で4回目となります。この自然史しずおか祭は、ミュージアムの研究員、NPO自然博ネットの会員、サポーターなどのミュージアム関係者の皆さんたちの、自然に関する研究や活動などについて、ポスター・プレゼンテーションをするために始めたイベントです。

今年は、25名と、地質化石研究部会、駿河ほねほね団、静岡大学農学部との3団体による、31テーマの発表がありました。発表は、本格的な研究から、標本作製や趣味の世界など様々で、「これは、すごい!」と思わせてくれるものが、盛りだくさんでした。毎年思いますが、様々な内容が充実したポスター・プレゼン大会は、そうそうないのではないのでしょうか? また、あらためて皆さんが、こんなことをやっているのかと、驚かされました。

11月3日のコアタイムには、発表会場にお集まりいただき、各々の発表内容について説明してもらいました。どの発表内容も、甲乙つけがたいものでしたが、今回は優秀賞をつくり3名に授与することにしました。受賞者は、その努力や発想、オリジナル性などをもとに選考され、佐藤 歩君「静岡市中平松で見つかった微化石」、関口航太君「天竜川の中流と下流の岩石



発表優秀賞授与式

受賞者：左から関口君、佐藤君・寺内さん

はどんな違いがあるか2)、寺内恭子さん「植物を「作る」ー立体植物図鑑の試みー2020」が授与されました。

今回の「自然史しずおか祭2020」は、11月8日まで、たくさんの来館者に見学していただき終了しました。そして多くの皆さん、特にふじミュで働いている皆さんから、「たった一週間程で、終わってしまうのはもったいない。」「期間を延長してはどうか。」などの言葉をいただきました。これも、発表をしていただいた皆さんの努力のおかげだと思います。このイベントを企画した私の考えとしては、今後も「自然史しずおか祭」は続けていくつもりです。そして、ふじミュでは欠かせない、主要な恒例行事としていきたいと考えています。今回の「自然史しずおか祭2020」をご覧になった方、またこれを読み「私の研究を発表したい」「私達(私)の活動を知ってもらいたい」と思われた方は、ぜひ来年の「自然史しずおか祭2021」にご参加ください。発表内容は、自然に関する研究や記録、団体の活動などで、参加者は主にミュージアムの関係者としていますが、熱意があればどなたでもかまいません。来年の開催日はまだ決定していませんが、例年だと9月にはミュージアム関係者に参加申し込み用紙を配り、11月3日文化の日付近で開催します。多くの方々に参加して頂き、より楽しく、充実した「自然史しずおか祭2021」にしましょう!